

会 務 月 報

第 499 号

発行 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

■令和6年9月常任理事会 議事概要

1. 日 時 令和6年9月9日（月）13:30～15:35

2. 場 所 日事連会議室

3. 常任理事会構成者総数、定足数及び出席者数

常任理事会構成者総数14名、定足数8名、出席者数13名

4. 出席者及び欠席者の氏名

出席者

会 長 上野浩也

副 会 長 村田良太、白井 勇、相原清安、樋上雅博、内野輝明、西 洋一

専務理事 居谷献弥

常任理事 山口 聡、石井繁紀、安藤春久、鉄川裕崇、仲摩和雄

事 務 局 前田、野出、三浦、千浜、吉田

欠席者

大村修常任理事

5. 議 長

上野浩也会長より議長について諮り、村田良太副会長を議長に選任した。

6. 議事録署名人

上野浩也会長、村田良太副会長

7. 専決事項

(1) 令和6年度日事連建築賞の受賞者決定の件

事務局より、資料1によって日事連建築賞選考委員会での選考経過、受賞者及び広報等について説明がなされた。

議長より令和6年度日事連建築賞の受賞者について諮ったところ、異議なく資料1のとおり決定した。

(2) 令和6・7年度専門委員会等委員について

事務局より、資料2によって令和6・7年度専門委員会等委員について説明がなされた。

上野会長より、広報・渉外委員会では会誌のWeb化推進、木造・木質化検討WGではいわゆる4号特例が変わることとサポートセンターの設置に向けた議論を期待している。各委員会の課題等を箇条書きにして、委員長・主査等に渡したい。

議長より令和6・7年度専門委員会等の委員について諮ったところ、異議なく資料2のとおり決定した。

(3) 専務理事の非常勤化及び参与職の新設等について

事務局より、資料3によって次の趣旨の説明がなされた。

居谷専務理事が辞任の意向を示されたため、次の専務理事候補者を参与（職員）として採用し、その者が専務理事に選任されるまで、10月中旬から居谷専務理事を非常勤役員としたい。

議長より専務理事の非常勤化及び参与職の新設等について諮ったところ、異議なくこれを決定した。

（4）臨時総会及び臨時理事会の開催等について

事務局より、資料4によって次の趣旨の説明がなされた。

専務理事交代のため、まず総会で専務理事候補者を理事に選任し、その後に理事会で専務理事を互選しなければならない。12月13日の全国会長会議の際に、臨時総会及び臨時理事会を開催し、新専務理事を選任したい。なお、全国会長会議後の懇親会実施については未定となっていたが、会長等と相談の結果、実施することとしたい。

議長より臨時総会、臨時理事会及び懇親会の開催について諮ったところ、異議なくこれを決定した。

8. 協議事項

（1）建築士事務所全国大会（福井大会）の運営について

事務局より、資料5によって福井大会の行事等スケジュール、運営及び正副会長及び専務理事の役割等について説明がなされた。

上野会長より、来年度以降に備え、専務理事候補者（参与）にも同行してもらった方がよいとの発言がなされた。

協議の結果、資料5の原案を了承し、実施することとした。

（2）令和7年度建築士事務所賠償責任保険の制度改定について

白井副会長より、資料6によって次の趣旨の説明がなされた。

令和7年度より、建築士事務所賠償責任保険の制度改定を実施したい。改定項目は、基本補償プランの免責金額タイプ、法令基準未達補償特約・構造基準未達補償特約（補償範囲、支払限度額及び最低保険料）、建物調査業務補償特約及び非会員契約展開プランの見直し並びに制度運営費である。

石井常任理事より、このような制度内容の改定は日事連サービスの役員が検討しているのかとの質問がなされ、事務局より、役員は経営に関することのみで保険の制度改定には関与していないとの回答がなされた。

西副会長より、事故回数によっては保険が契約できなくなる。緩和してほしいとの発言がなされた。

上野会長より、会員の保険料に応じて単位会に事務手数料が還元されるので、加入促進に協力してほしいとの発言がなされた。

協議の結果、資料6の原案を了承し、12月通常理事会に提案することを決定した。

9. 報告事項

（1）「建築士事務所登録手数料の考え方」に関する研究会の検討結果等について

上野会長及び居谷専務理事より、資料7によって研究会の検討結果及び国土交通省から都道府県宛てに发出された技術的助言の内容等について説明がなされた。

樋上副会長より、大阪会の手数料算出根拠について金額を示し説明がなされた。

石井常任理事より、人件費が変わったら毎年県に要請するのかとの質問がなされ、上野会長より、県に対して、5年毎に見直す等担保を取ってはどうかとの発言がなされた。

（2）会員・構成員異動報告

事務局より、資料8によって令和6年6月及び7月の単位会別構成員数及び賠償責任保険加入者数等の報告がなされた。

(3) 事務局より、資料9によって後援名義等使用の催物について報告がなされた。

(4) 事務局より、資料10によって前回常任理事会以降の経過報告がなされた。

<配付資料>

資料1：令和6年度日事連建築賞の受賞者決定について

資料2：令和6・7年度委員会委員等について

資料3：専務理事の非常勤化及び参与職の新設等について

資料4：臨時総会及び臨時理事会の開催等について

資料5：福井大会大会役員スケジュール等

資料6：日事連・建築士事務所賠償責任保険2025年度「制度改定」のご案内

資料7：建築士事務所登録手数料について（技術的助言）他

資料8：会員・構成員異動報告等

資料9：後援・協賛名義使用の件

資料10：経過報告

■第12回会誌編集専門委員会 議事概要

日 時 令和6年8月28日（水） 15：00～17：13

場 所 日事連会議室

出席者 委員長 荻窪伸彦

副委員長 宇塚幸生

委 員 田端友康、鈴鹿美穂、小泉 厚、福山雅也

広報・渉外委員長 鉄川裕崇

オブザーバー 次期委員 廣瀬正美

前広報・渉外委員長 石井繁紀

(株)ジェイクリエイト 城市奈那、江島千鶴

会 長 上野浩也(特別出席)

事務局 居谷、前田、三浦、井上

欠席者 委 員 齊藤滋史

<配付資料>

資料1：令和6年10月号台割

資料2－1：令和6年11月号台割

資料2－2：令和6年12月号台割

資料3：「美術館・博物館巡り」寄稿募集について

資料4：日事連建築賞選外作品の掲載について

資料5－1：特集提案 全国で始動しはじめた建築祭

資料5－2：特集提案 よみがえる寺社

参考1：令和6年度 年間台割表

参考2 : 令和5年度 年間台割表

議事に先立ち、上野会長より挨拶があった。また、委員長より、次期委員および新広報・渉外委員長が紹介された。

議事

1. 直近の会誌（7・8月号）の掲載内容についての意見交換

会誌の掲載内容について、各委員より感想等を述べた。

<7月号>

◇特集 小劇場・小ホールの創造空間

- ・事例も多く、読んでいてワクワクする内容だった。
- ・歴史の流れが非常によく分かるインタビューだった。
- ・インタビューの年表は、清水先生の話の流れに沿って、もっと小劇場・小ホールを載せても良かったのでは。大規模ホールが掲載されているなど、掲載基準が分からなかった。

◇令和6年度日事連建築賞作品紹介

- ・会誌でも昨年特集した建物であるが、今回の記事で改めて木造の可能性を感じた。

◇BIMで変わる、BIMで変える

- ・今回のように、導入メリットの裏にあった苦労話も盛り込まれていると、小規模事務所はより身近で参考になる内容として受け止めることができる。

◇美術館・博物館巡り

- ・非常に興味深く読んだ。
- ・文中でBIMの貢献について触れられており、偶然かもしれないが、記事の次にBIM広告が来る構成がスムーズよかった。
- ・全国大会に合わせ訪問したいと思ったが、7月号発刊時点では各单位会が既に旅程を決定していることが多く、後から訪問先を追加することは難しい。もう少し早く掲載してもらえればと思う。
- ・断面詳細図はもっと大きく掲載されていると良かった。

◇単位会からの風

- ・群馬会の「イトマキシード」は特に地域性が高く興味深かった。

<8月号>

◇特集 高架下の新たな魅力

- ・用途の多彩さに驚かされた。
- ・ぜひ現地を訪れたいと思わせる内容だった。
- ・工場や店舗等を内包する事例としてKOCAが紹介されたが、確認申請において敷地をどのように区分けしているのかも知りたいと思った。

◇見どころ見聞録

- ・昨年の鳥取・島根大会と比べると物足りなさを感じる。

◇景観・まちづくりPREVIEW

- ・2つの伝建地区を紹介しているが、内容を詰め込み過ぎという感じがした。また、写真もやや見にくく、文章が良いだけにもったいない。

◇日事連ニュース

- ・今回は写真が掲載されていたので目に留まった。普段このコーナーは文字だけなので読み飛ばしてしまいがちだが、日事連の活動を発信するためにはビジュアルに訴えるのも必要だと思う。

◇単位会からの風

- ・山形会が取り組んだ旧山形師範学校講堂の保全活動が興味深かった。

2. 10月号の編集状況の報告

事務局より、10月号の編集状況について、台割案に基づき説明がなされた。（資料1）

また、あわせて事務局より、これまで偶数月に掲載してきた「景観・まちづくりPREVIEW」は、担当委員会の活動終了に伴い8月号をもって連載終了となった旨、報告がなされた。

◇特集「令和6年度日事連建築賞」

- ・例年と同じく、日事連建築賞を受賞した各作品を審査講評とともに紹介する。

◇その他の主な記事等

- ・「単位会建築賞・コンクール」には、11件の寄稿があった。
- ・「その他単位会建築賞一覧」では、寄稿の無かった建築賞・コンクールをリスト形式で紹介する。
- ・「建築まちづくりNEWS」は、国土交通省と林野庁からの寄稿により「国産木材活用住宅ラベル」のほか、最近の木材活用推進の施策を紹介する。
- ・編集後記は宇塚副委員長が執筆する。

3. 11月号以降の特集等の確認・検討

ジェイクリエイトおよび事務局より、11・12月号について、台割案に基づき説明がなされた。（資料2-1・2-2）

<11月号>

◇特集 建築士事務所のウェブ活用

- ・デジタルマーケティングの重要性が年々増す中、建築士事務所のウェブ活用について特集する。
- ・「ウェブ活用の原則と適切なツール選び」について、architecturephoto.net・後藤連平氏のインタビューを掲載する。
- ・「市民活動団体・専門組織における情報発信の極意」について、（一財）非営利組織評価センター・山田泰久氏のインタビューを掲載する。
- ・ウェブ発信を積極的に行っている建築士事務所のインタビューを掲載する。

〔予定〕井川建築設計事務所、ALTS DESIGN OFFICE、西和人一級建築士事務所、左巴建築設計事務所

◇その他の主な記事等

- ・「令和6年度日事連建築賞作品紹介」は、国土交通大臣賞を受賞した事務所が執筆する。
- ・「続BIMで変わる、BIMで変える」は、静岡会・アトリエMアーキテクツが執筆する。
- ・編集後記は、荻窪委員長が執筆する。

【意見等】

- ・BIMwork・水谷亮介氏はBIMに特化した情報発信を行っており、大変興味深い事例であるので、トピックスとして紹介してもらいたい。

⇒（ジェイクリエイト）了解した。

- ・ウェブ発信の費用対効果についての話も聞きたい。

<12月号>

◇特集 能楽堂の現在

- ・「能楽堂の歴史と建築的特徴」について、近畿大学・奥富利幸教授のインタビューを掲載する。
- ・（公社）能楽協会の協力により、能楽の基礎知識を掲載する。
- ・設計者の視点から、能楽堂の改修設計について解説してもらう。

〔予定〕山本能楽堂（安井建築設計事務所）、横浜能楽堂（松田平田設計）

- ・「わがまちの能楽堂」として、全国の会員からの寄稿を募集する。

◇その他の主な記事等

- ・「令和6年度日事連建築賞作品紹介」は、日事連会長賞を受賞した事務所に執筆する。
- ・8月に東海北陸ブロック協議会青年委員会において開催された、上野会長、相原三重会会長、木下福井会会長による鼎談「ブロック協議会に求められる青年委員会とは？」の模様を、ジェイクリエイトがまとめる。

【意見等】

- ・会員寄稿が集まらなかった場合は、見開き2ページの日本地図で各地の能楽堂を紹介するという方法もある。
- また、ジェイクリエイトより、11月号・12月号の表紙について次の提案があった。

例年は日事連会長賞受賞作品を12月号の表紙に掲載しているが、今年は11月号の特集テーマ（建築士事務所のウェブ活用）が写真映えしにくいものであることから、11月号表紙を日事連会長賞受賞作品、12月号表紙を能楽にしてはどうか。

検討の結果、提案通りの掲載スケジュールにすることとした。

4. デザインリニューアルについて

ジェイクリエイトより、次の提案があった。

ジェイクリエイトが編集担当となった2011年4月号以来、会誌は現在のデザインを継続している。2016年6月号にてマイナーチェンジ（表紙写真を正方形にする等）を行ったが、そろそろデザインの見直しを検討しても良い時期と思われる。レイアウトや記事構成等について、意見を伺いたい。

検討の結果、再来年1月号にて全面的な刷新を行うことを念頭に、次回委員会から本格的な検討を開始することとした。

5. 「美術館・博物館巡り」寄稿募集について

事務局より、委員に対し「美術館・博物館巡り」への寄稿・執筆者推薦の依頼がなされた。（資料3）

【意見等】

- ・74回と長期に亘り連載していることから、どこかのタイミングで一区切りつけても良い。
- ・非常に専門的なことを書く必要があると誤解されているケースがある。その誤解が寄稿の集まりにくさに繋がっているのかもしれない。

検討の結果、現段階では連載を存続させる方向とし、依頼方法は引き続き検討していくこととした。

6. 日事連建築賞選外作品の掲載について

事務局より、日事連建築賞選考委員会からの提案を受け、来年度からは受賞作品だけでなく選外作品（二次審査に進んだが受賞に至らなかった作品）も会誌に掲載することについて説明がなされた。（資料4）

【意見等】

- ・選外作品は毎年30～40作品ある。それらをすべて掲載するのであれば、10月号に受賞作品と併せ一度に掲載した方が良い。または、選考委員会が選外作品にも明確な順位をつけ、その上位作品のみを掲載するのであれば、11月号以降に順次掲載しても違和感はない。

- ・現状では県ごとの応募状況が把握できないので、10月号に1～2ページ構成で選外作品すべてを紹介するのが良いのでは。建築作品の写真は小さくてもかまわない。
- ・掲載時期が遅くなると読者がしらけてしまう恐れがある。
- ・応募者にとっては、一次審査を通過した事実が何かしらの形に残るのは重要。
- ・費用の問題はあるが、会誌とは別に、日事連建築賞の作品紹介冊子を作成しては。
- ・たとえばLIXIL社が主催する建築賞では、HP上で選外となった作品も紹介し、応募事務所へのリンクを貼っている。そういった運用も参考にできるのでは。
- ・せっかくであれば今年から掲載してはどうか。作品写真の収集が間に合わないのであれば、審査講評のところに一覧表を掲載する方法もある。

検討の結果、日事連建築賞選考委員会には「10月号に見開き2ページで選外作品を掲載する」旨を回答し、必要であれば再検討を行うこととした。

なお、今年から掲載することについては、選考委員会の意向を確認することとした。

⇒（事務局追記）委員会後、事務局から松村選考委員長に上記を報告したところ、各応募事務所へ掲載可否を確認するのに時間を要することから、確認不足となるリスクを回避するため当初の予定通り来年度からの掲載とする旨の意向が示された。

7. 特集の提案について

荻窪委員長および宇塚副委員長より、特集の提案について説明がなされた。

<全国に拡がりはじめた「建築祭」>（資料5－1）

- ・近年全国的に拡大を続ける建築祭を特集する。事例候補としては東京、神奈川、長野、愛知、京都、大阪、兵庫など。取材もしやすいテーマと思われる。
- ・全国の建築祭がまとめて概観できるガイドブック的な構成とし、新しい建築祭が生まれるきっかけにもしたい。

<寺社建築の新たなかたち>（資料5－2）

- ・少なくとも最近10年ほどは、寺社に絞った特集は組んでいない。
- ・伝統的な工法による寺社のほか、ビルの一画に入居する新しい形態の寺社も取り上げたい。

【意見】

- ・事例（宗教や宗派）の選定基準の設定が難しいかもしれない。

検討の結果、「建築祭」を4月号の特集テーマとすることとし、寺社建築は構成等を再検討することとした。

8. 次期副委員長の選出について

事務局より、令和6・7年度の副委員長の選出依頼がなされた。

検討の結果、荻窪委員長がWeb参加となる場合が多いこと等を考慮し、鈴鹿氏（東京会）を副委員長に選出した。

9. その他

- ・表紙案への投票数が同数の場合の選定方法について

委員長より、選定方法について以下2案の提案がなされた。

- （1）委員長一任とする。ただし、委員長は投票には参加しない。
- （2）委員長と副委員長で対面またはリモートによる検討を行い決定する。

検討の結果、（1）を採用することを決定した。

- ・次回委員会：10月1日（火）14：00～16：00

委員長より、経費節減の観点から、今年度より対面開催の頻度を減らす必要がある旨と、対面開催のタイミングは適宜委員会で決定していく旨の説明がなされた。

最後に、新旧の委員および広報・渉外委員長から挨拶があった。

■第1回青年部会連絡会議 議事概要

日 時 令和6年9月27日（金）14:00～15:45

場 所 日事連会議室

出席者 主 査 東山 圭

委 員 平塚 勝、中里信文、出村洋一、奥村健太、岸本章宏

担当副会長 西 洋一

会 長 上野浩也（特別出席）

オブザーバー 宮崎 勲

事務局 居谷、前田、伊東、井上、中村

欠席者 副主査 村田正道

議事に先立ち、出席者による自己紹介の後、今回は第1回目につき特別出席の上野会長より、以下の趣旨の発言があった。

就任挨拶の際に、青年支援の実施を明言したため、青年部会連絡会議には是非とも活発な活動をしていただきたい。

委員の皆様には、青年部会連絡会議卒業後に「日事連を背負っていく」という意気込みで活動していただきたい。それまでの任務は私が引き受けるので、そのバトンを繋いでいただける人が早く現れていただければ嬉しく思う。

また、今回の青年話創会2024（福井大会）について、出村委員には是非とも熱気が溢れる会議になるよう健闘していただきたい。

議 事

（1）令和4・5年度までの振り返り

東山主査より、資料1及び資料2によって青年WGの発足から青年部会連絡会議に改編になり、現在に至るまでの状況説明がなされた。

【発足から現在までの状況】

2016年度に青年WGとして発足し、青年話創会を立ち上げ、全国大会に合わせて開催してきた。

2019年に青年部会連絡会議に改編された。この時期から全国大会は地方で持ち回り開催となり、それに合わせて開催する話創会も主管会が実行部隊となったため、連絡会議として話創会のバックアップもしながら今後の青年組織をどうしていくかを議論してきた。

【前期の成果】

単位会の中には、親会の青年組織に対する考え方やそもそも若い世代がいないといった問題を抱えている場合が多く見受けられた。そのため、前期では青年組織の無い単位会の若い世代の方をケアするため、各ブロック内の青年組織の設置を急ぎ、今後はブロック単位で活動できるよう組織固めに注力した。ロードマップを確認すると、2024年度は各ブロックに青年組織の設置とあるが、これは概ね達成している。

【青年部会連絡会議の立ち位置】

青年活動の主役はあくまでもブロック及び単位会であり、青年部会連絡会議は裏方である。

青年部会連絡会議は、各青年組織が上手く機能していくように、若い世代の中での問題を整理し、解決する道筋を作るのが役割である。

連絡会議の委員は各ブロックの代表として選出された。この連絡会議の中で青年活動のあり方を検討し、決定したことを各ブロックに上手く展開するのが任務である。

また、今後も話創会との連携及びサポートも継続していく。

(2) 所属単位会及びブロックでの青年活動状況報告

【北海道東北ブロック】

平塚委員より、資料3-1によって北海道東北ブロックの青年活動についての報告がなされた。

北東ブロック協議会の開催に合わせ、7月8～9日に秋田県でブロック青年部会会議を開催した。1日目は会議とまちづくりに関する講演会及び懇親会が開催され、2日目には見学会を実施した。

会議の中では、人がいないところでどうやって人を巻き込んでいくかという話題になり、各単位会の参加者から様々な助言が寄せられた。

【青森会】

平塚委員より、資料3-2によって青森会の青年活動についての報告がなされた。

7月25日に青年委員会を開催した。新会長による体制となり、青年委員会の原点から考えることとなった。これまでの青年委員会の参加資格は、管理建築士か代表取締役で50歳未満としてきたが、当会では該当者はわずか10名であった。今回北海道東北ブロックから青森会の青年メンバーだけでなく山口新会長に対しても「参加資格を50歳未満の所員も可能としてはどうか」と助言があり、次の総務・財務委員会で参加資格の拡大について諮ることとなった。

【関東甲信越ブロック】

中里委員より、資料3-3によって関東甲信越ブロックの青年活動についての報告がなされた。

関東甲信越ブロックの青年組織は立ち上げたばかりであり、名称は「NEXT」となった。メンバーは各単位会から1名ずつ選出され、来月中に決定する。

【東京会】

中里委員より、資料3-4によって東京会の青年活動についての報告がなされた。

当会では「社会貢献・若手育成・技術向上・団体交流」の4本柱を基に活動しており、今年度は新たにインスタグラムを導入した。月に1回活動しておりセミナーや交流会には賛助会の参加もある。

【東海北陸ブロック】

出村委員より東海北陸ブロックの青年活動についての報告がなされた。

東海北陸ブロックでは、各単位会内での青年組織の設立が進んでいないため、個人的に石川会との交流及び活動に参加している。石川会主催のリレートークにはブロックメンバーで参加した。

ブロックの活性化のため、9月21～23日の三連休にブロック内の若手メンバーで能登の建築相談員として参加した。若手で集まって頑張っていこうとした矢先、大雨に見舞われ、相談件数はわずか3件程度に留まってしまった。しかし、若手同士で深い交流ができ、ネットワークに繋がった。まだブロック内に青年組織が設置されていないが、こういったネットワークを生かして活動ができるのを実感した。単位会内に青年組織が設置されてなくても、ブロックを通して青年活動ができることを再認識できたため、今後もブロック活動を進めていきたい。

【近畿ブロック】

奥村委員より資料3-5によって近畿ブロックの青年活動についての報告がなされた。

9月13日に近畿ブロック協議会の開催に合わせ、滋賀でブロック青年部会会議を開催した。

「青年部」の名称について、2会より愛称案が提案されたが結論に至らなかった。次回は11月9日に近畿ブロック青年大会の開催を予定している。現在は親会の開催に合わせて活動しているが、これからは青年部が中心として動いていく方向である。ブロック青年部会のメンバーは全員顔馴染みであり、グループLINEで連絡を取る仲である。

【九州・沖縄ブロック】

岸本委員より資料3-6によって九州・沖縄ブロックの青年活動についての報告がなされた。

前年度と同様に親会の開催に合わせて7月18日に宮崎県で青年部会協議会を開催した。もともと、各県2〜3個の議題を出して討論してきたが、昨年度よりブラッシュアップし、円卓で各県の参加者を囲んでディスカッションをする「九ブロ話創会」を実施している。

また、福岡会では各県との交流を再開したが、予算を付けずにメンバーの自腹で実施している。今年1月に福岡会のメンバーが仕事終わりに鹿児島に移動し、鹿児島会のメンバーと交流し、翌日に見学会を実施した。年明けには鹿児島会のメンバーが福岡を訪問する予定となっている。ブロック内での単位会同士の繋がりがまだ薄いため、このように各単位会同士で交流を深めている最中である。

今後の佐賀大会に向けて一致団結していこうという話もあり、1シーズンに1回は集まりたいという話が出ている。

(3) 令和6・7年度の青年部会連絡会議の活動の柱の検討

東山主査より、令和6・7年度の青年部会連絡会議の活動の柱の検討について説明がなされた。

- ・組織づくりは概ね達成した。
- ・青年話創会のあり方の検討
- ・連絡部会の中長期的な活動について、課題の洗い出しと解決策の検討
- ・各単位会及びブロックの青年をどう繋げていくか。
- ・青年の集まりによってどんな組織にしたいか。ただ集まるだけでなく、どうしていきたいかという大義名分が必要

これらについて参加委員より以下の意見が出された。

- ・「みんなで集まってわいわいする」ということからのステップアップのため、次には明確な何かが必要である。ロードマップにも会員増強とあるが、これも大きなテーマである。事務所協会の良さを外部にアピールすることによって、建築士事務所の地位向上に繋がるのではないかと。「青年組織として国会で取り上げてもらえるような議題を考える」というところまで進んでいくと、「事務所協会」そして「若手の意見も取り上げてもらえる会」ということが広く知れ渡るきっかけになるのではないかと。
- 会員増強と地位向上について、今後一年ほど連絡会議で協議して形にしていければと思う。
- ・近畿ブロックと連絡会議でも同様のことが起こっているが、設立した主要メンバーが抜けてその下がり残されている状況である。ロードマップに色んな問題提起がされているが、解決するために話し合いだけでなく、外部との交流や、事務所協会だけでなく、建築関係の魅力を発信して人材育成をするといったことをしないと進まない。その起爆剤として話創会を活用して面白いことをしたい。

→先ほどの出村委員の話にもあったが、外部への働きかけも一つのポイントであり、それは青年組織のためだけでなく会員増強にも繋がる上に、外部に対する社会貢献にもなる。

- ・日事連の枠組みの中にブロック、その下に単位会がある。まず、ブロック内の同世代間の問題意識の共有が必要だと考えており、その解決のために話し合いは欠かせないと考えている。会員増強も大切なことだが、現会員で参加されていない会員にいかに活動参加させていくのかも重要な課題である。どうやって会員の活動参加数を伸ばせばいいかと思うが、参加しているメンバーだけで議論したとしても、参加しない会員とは価値観が違う可能性があるので解決策がなかなか見つからないと思う。
- ・ロードマップに世代交代とあるが、今回の話創会には九州・沖縄ブロックから新メンバー2名が参加することになっている。横のつながりを強化し、まずは中を固めてから外に発信するのが良いと思う。福岡会の青年会員数はずっと横ばいであり、会社を独立して福岡会に入会するパターンもある。しかし、4年後の全国大会開催予定の佐賀では、青年世代が大変少ないため、話創会はブロックで協力していく方針である。また、宮崎会と沖縄会の青年メンバーは建築士会及びJ I Aと同じメンバーなので、活動は似たり寄ったりになっているようだ。
- ・青森会は会員数が少なく、県内の建築士事務所の事務所協会加入率は18%未満である。そのため、先ほども説明したが、青森会の親会に青年組織の入会基準の変更を要請しているところである。

3年後の全国大会は青森開催予定であるが、青年組織メンバーはたった5名であり、無事に話創会の開催ができるのか不安であるため、ブロックにも協力依頼をしているところである。今度の福井の話創会には、親会の負担で若手2名を参加させる予定である。今日の状況報告にあった各委員からの活動資料は大変参考になるので、青森会青年組織内で展開したいと思う。皆さんの頑張りは凄いなと思うし、こちらも負けていられない気持ちである。

→他の連絡会議の委員の単位会は青年活動が盛んである。連絡会議は全国の調整役であるが、青森会のように人が少なく困っている単位会の方が大多数である。人が少なく大変な単位会にとって、連絡会議にできるサポートはどんなことだろうか。

- ・構造や設備を外注しようとしても協力事務所はおぼつかない。若手は少なく、年配も手一杯である。どうやって仲間を集めているのか、成功例を集めていただけると非常に助かると思う。

青森の若い世代は宮城県に行ってしまうので、跡継ぎがいなくなっている。また、建築士試験を受ける人がおらず、県全体で一級建築士合格者は10名程度である。青森の建築士事務所の次の担い手の確保が悩みである。

例えば、建築士試験を弁護士試験のように、学歴が無くても予備試験を受けられるように制度を変更して、受けやすい試験にできないかと思う。一方で、もしそうなったら合格者の質が悪くなることが懸念される。小中高校で建築士の啓蒙活動をしているが、せっかく良いアピールができたとしても、子供たちは大きくなったら大多数が青森を出てしまう。

- ・東京会の青年世代数は福岡会と同様に横ばいで、現在170名程度である。やはり、実際に活動に参加している者は限られているため、どうやって会員を活動に参加させるのかが課題である。

協力事務所については、東京会の親会が推進しているマッチングサービスがあり、各事務所に繋がりを作っている。

青年組織で一級建築士学科セミナーを実施しており、これまでは会員・非会員ともに無料としてきた。今年度から非会員は有料にし、「入会したら受講料無料」にしたら入会数が増加し、会員増強に繋がった。今後は新規入会者をどのように活動に参加させていくかが課題である。

- ・人の輪や交流が増えるのは良いが、その一方で若手参加者には自腹で出席を求めることもある上に、働き方改革の影響で本業の傍らこういった活動に参加する負担に配慮が必要である。

→巻き込むのは良いが、「良かったね」ではなく次にどうやって繋げていくかのケアも必要である。

協議の結果、今回は以下の6項目について議論することとなった。

- ① 現会員をもっと活動に参加させ、巻き込んでいく仕掛けづくり
- ② 会員増強の方策を検討。魅力づくり、どうやって声掛けをするか等
- ③ 話創会の活用について。毎回単発なので今後はストーリーを付けることの検討
- ④ 人口が少ない地域の建築士をどう増やしていくか。
- ⑤ 単位会同士の交流を活性化し、全国に派生していく仕掛けづくり
- ⑥ ブロック同士の交流。現在は青年話創会によって全国の青年世代が一気に集まっているが、それだけでなく上手くどう動かしていくか。

(4) 青年話創会2024（福井大会）について

出村委員より、資料4によって青年話創会2024（福井大会）について次のとおり報告がなされた

- ・東海北陸ブロックのメンバーを巻き込むのは難しく、福井会単独で進めている。
- ・働き方改革に関するディスカッションの後、発表を予定している。
- ・事前アンケートを取ろうと思っている。開設者だけでなく所員も対象に現状を分析したいので、協力をお願いしたい。
- ・福井市の宿泊施設は少なく、市外の宿泊施設を利用される参加者を考慮し、終了時間を例年より1時間早く予定している。
- ・各ブロックによる青年組織の活動報告の時間を設けている。
- ・話創会最後に東山主査に全体の感想をコメントして頂き、また、次回の主管会である新潟会に来年度のアピールの時間を設けたい。
- ・懇親会の中締めは前回共管の鳥取・島根にお願いしたい。
- ・予算内に収まるようなんとか頑張っている。
→今回のテーマは単発であるが、ストーリーがあると楽である。
また、各ブロックからの活動報告は、ブロック青年部会長への依頼が必要である。
次回の青年部会連絡会議には新潟の話創会担当者がオブザーバー参加するのはどうか。会議の前半が話創会関係で、後半を連絡会議の議論とするのはどうだろう。
- ・話創会で「これは絶対にやらないといけない」という決まり事はあるか。
→話創会は「話をする会」であるが、みんなで話すか、誰かが話すかは自由だと思う。
- ・今後、京都開催を予定しているが、「討論して発表して終わり」より、京都らしいことができないかと考えている。これまでの話創会は場所が違うだけで、やっている内容は同じだと感じる。
→その辺りを含め、やり方を検討していく必要がある。

(5) その他

【OBの会への報告】

事務局より、毎年OBの会より話創会への支援金として10万円の寄付があるため、今回からは話創会の報告書が完成したら、日事連からOBの会にも報告しようと思う。

【連絡会議の参加者】

岸本委員より、前回の会議で、連絡会議の委員は各ブロックから2名の体制にしたいとの話があったと思うが、どうなったのかとの発言があった。

これについて東山主査より、交通費等の理由により各ブロックより1名の選出となったが、例えば各ブロックの今後の青年話創会担当になる方がオブザーバーとして、Webでの参加は可能であるとの説明がなされた。最後に、上野会長より以下の発言があった。

- ・青年部会連絡会議として、法改正等具体的に何がしたいのかといった提言があれば、是非上げていただきたい。意見がまとまれば、また新たな活動に繋がるのではないかな。
- ・入会メリットについての話もあるが、いわゆるメリットを求めて入会するとすぐに辞めるケースが多い。会員にとって「居心地の良い仲間」ができるのが良いことである。悩みを打ち明けられるような「仲間づくり」の場が必要である。
- ・次期以降の話創会担当者のオブザーバー参加について、話創会の表に出てこないような裏方仕事をここで見せるのは有意義だと思う。
- ・全国の青年世代が一堂に会する話創会は年に1回開催しているが、近隣ブロック合同話創会のようなものなら年2回開催できるのではないかな。

次回日程は年末年始辺りで調整する。

(配付資料)

令和6・7年度青年部会連絡会議委員名簿

第7回 青年部会連絡会議 議事概要

- 【資料1】各単位会の青年組織設置状況
- 【資料2】中長期テーマ実現に向けてのロードマップ
- 【資料3-1】北海道・東北ブロック協議会活動状況
- 【資料3-2】青森会活動状況
- 【資料3-3】関東甲信越ブロック協議会活動状況
- 【資料3-4】東京会活動状況
- 【資料3-5】近畿ブロック協議会活動状況
- 【資料3-6】九州・沖縄ブロック協議会活動状況
- 【資料4】青年話創会 2024 福井大会 実施要項

■主な行事予定

令和6年

- | | | |
|-----|-----|------------|
| 10月 | 16日 | 法制度対応特別委員会 |
| | 17日 | 会員サービス検討WG |
| | 22日 | 総務・財務委員会 |
| | 23日 | 広報・渉外委員会 |
| | 28日 | 業務・技術委員会 |

1 1 月 5 日 適合・既存住宅状況調査専門委員会
 6 日 総務・財務委員会
 8 日 指導運営委員会
1 1 日 監査会
1 3 日 業務報酬及び官庁発注検討WG
1 5 日 教育・情報委員会

令和6年9月末 会員・構成員異動報告等

1. 期 間 令和6年9月1日～9月30日
 2. 会 員 在 籍 正会員 47団体 構成員 14,191事務所
 賛助会員 11社

単位会	構成員		建築士事務所登録		賠償責任保険		
	増 減	在籍数(A)	登録数(B)	加入率(A/B)	増 減	加入数(C)	加入率(C/A)
北海道	△ 3	939	4,008	23.4 %	△ 1	277	29.5 %
青 森		161	872	18.5 %		46	28.6 %
岩 手		273	885	30.8 %		82	30.0 %
宮 城	△ 1	318	1,737	18.3 %		88	27.7 %
秋 田	+ 1	135	926	14.6 %		46	34.1 %
山 形	+ 2	214	1,041	20.6 %		61	28.5 %
福 島	△ 1	231	1,383	16.7 %		71	30.7 %
茨 城	△ 6	421	1,758	23.9 %		146	34.7 %
栃 木		164	1,253	13.1 %		77	47.0 %
群 馬		187	1,514	12.4 %		90	48.1 %
埼 玉		431	4,265	10.1 %	△ 1	135	31.3 %
千 葉		333	3,161	10.5 %	+ 1	113	33.9 %
東 京		1,635	14,009	11.7 %		644	39.4 %
神奈川	△ 4	739	5,652	13.1 %	+ 1	245	33.2 %
新 潟		295	2,109	14.0 %		128	43.4 %
長 野		375	1,952	19.2 %	+ 1	102	27.2 %
山 梨	△ 1	104	752	13.8 %		13	12.5 %
富 山		293	1,092	26.8 %		63	21.5 %
石 川	+ 2	329	1,219	27.0 %		69	21.0 %
福 井	△ 3	193	894	21.6 %	+ 1	55	28.5 %
岐 阜		108	1,471	7.3 %	△ 1	34	31.5 %
静 岡		370	2,870	12.9 %	+ 1	125	33.8 %
愛 知	+ 1	495	4,779	10.4 %		145	29.3 %
三 重		181	1,117	16.2 %		61	33.7 %
滋 賀	+ 1	181	1,033	17.5 %		42	23.2 %
京 都	△ 2	355	2,117	16.8 %		107	30.1 %
大 阪		794	6,086	13.0 %	△ 2	248	31.2 %
兵 庫	△ 1	350	3,300	10.6 %	+ 1	99	28.3 %
奈 良	+ 1	103	906	11.4 %		26	25.2 %
和歌山	+ 1	105	705	14.9 %		25	23.8 %
鳥 取		117	440	26.6 %		53	45.3 %
島 根		116	598	19.4 %		54	46.6 %
岡 山	△ 2	372	1,372	27.1 %	+ 1	70	18.8 %
広 島	△ 1	339	2,148	15.8 %	△ 1	150	44.2 %
山 口		111	956	11.6 %		39	35.1 %
徳 島	+ 1	105	761	13.8 %		20	19.0 %
香 川		88	1,000	8.8 %	△ 1	20	22.7 %
愛 媛		196	1,128	17.4 %		57	29.1 %
高 知	△ 2	137	616	22.2 %		37	27.0 %
福 岡	+ 4	468	3,434	13.6 %		182	38.9 %
佐 賀		175	532	32.9 %		43	24.6 %
長 崎		226	753	30.0 %		43	19.0 %
熊 本	△ 3	223	1,335	16.7 %		93	41.7 %
大 分	△ 2	152	767	19.8 %		47	30.9 %
宮 崎		108	979	11.0 %		46	42.6 %
鹿児島	△ 6	264	1,058	25.0 %	+ 1	81	30.7 %
沖 縄		182	1,267	14.4 %	+ 1	71	39.0 %
計	△ 24	14,191	94,010	15.1 %	+ 2	4,569	32.2 %

※建築士事務所登録数(B)は令和6年4月1日時点の数字である。